

(2) 未来に引き継ぐ環境の創造

事業名 協働公募事業による環境保全

<概要>

地球温暖化の防止、循環型社会の形成、自然環境の保全等の環境施策を推進するためには、行政機関のみにとどまらず、地域住民、事業者、NPO等民間団体といった多様な主体が自らの問題として環境問題を捉え、自主的・積極的に目標に向けて取り組み、生活様式や社会経済活動の在り方を徐々に転換していくことが必要である。

このため、各主体と連携を図りながら、「身近な地球温暖化防止対策」や「高梁川を守り育てる環境保全活動」などをテーマとして協働事業に取り組み、自主的かつ特色ある環境保全活動を積極的に推進する。

<実施計画>

1 身近な地球温暖化対策

住民が地球温暖化問題について意識改革を図ることができ、地域を巻き込んで取り組むことのできる、身近で、アイデアに富んだ地球温暖化防止対策事業の企画・運営について提案公募を行い、応募団体と協働して応募事業を実施する。

2 高梁川を守り育てる環境保全活動

上・中・下流域の住民、事業者等が一体となり高梁川の未来を考え、行動する取組やその気運を醸成する取組など、高梁川を守り育てる環境保全活動の企画・運営について提案公募を行い、応募団体と協働して応募事業を実施する。

事業名 ヒイゴ池湿地回復プロジェクト

<概要>

トキソウ、サギソウ、スイランなどの貴重な植物や世界一小さい、ハッチョウトンボなどが観察できるヒイゴ池湿地（総社市）は、岡山自動車道建設工事に伴い、消失する危機にあったが、関係者の努力により保護保全された歴史を有する。

こうした保護保全活動を一層促進するため、総社市の主体的取組のもと、北の吉備路保全協会、地元町内会等と協働し、ヒイゴ池湿地が有する課題の抽出やその解決方策を探り、関連施設の整備を行うとともに、湿地環境について考え、学ぶシンポジウムを開催する。

<実施計画>

1 現状把握及び課題の抽出

再整備から10年余が経過し、ヒイゴ池湿地を巡る環境に様々な変化が見られることから、大学教授など湿地環境に関する専門家に依頼し、専門的・学術的視点からヒイゴ池湿地の現状を把握及び評価し、解決すべき課題の抽出を行う。

2 専門家による課題解決方策レポート作成

抽出された課題を解決し、本来の湿地の姿を取り戻すためには、どのような方策が必要であるか専門家に提言を求め、レポートをまとめる。まとめたレポートは、北の吉備路保全協会や地元町内会など湿地の現地管理に携わる団体に提供し、技術的管理のためのガイドラインとして活用してもらう。

3 関連施設の整備

専門家レポートや現場管理主体の北の吉備路保全協会や地元町内会等の意見を取り入れ、環境学習の場として一層の活用が図られるよう、パンフレット置場、案内板、遊歩道など必要な関連施設の整備を行う。

4 シンポジウムの開催

地域に愛される貴重な自然資源として、ヒイゴ池湿地が将来にわたり良好な状態を持続していくための契機となるよう、シンポジウムを開催し、ヒイゴ池湿地の魅力を再評価し、湿地の保護保全の取組の盛り上げを図る。

ヒイゴ池湿地回復プロジェクト

1 事業内容

総社市の主体的取組の下、北の吉備路保全協会、地元町内会等と協働して、現在のヒイゴ池湿地が有する課題の抽出やその解決方策を探り、これをもとに関連施設整備を行うとともに、湿地環境について考え学ぶシンポジウムを開催する。

2 事業イメージ

